



医師



第4回白鳥・市民健康セミナーをおえて

整形外科部長 伊藤 圭吾

平成25年3月20日、名古屋国際会議場にて第4回白鳥・市民健康セミナー『骨粗鬆症医療の最前線』が整形外科を中心に開催されました。小雨の降る中、約460名の方にお越しいただき、空席もないほどの大盛況の上で終わることができました。ご参加いただいた方々、ありがとうございました。

加藤院長代理より、NHKのクイズ面白ゼミナールの司会の鈴木健二のオープニングの決まり文句である「知るは楽しみなり」と申しまして、知識をたくさん持つことは人生を楽しくしてくれるものでございます。」をご紹介され、「生きていることは知ることだ。適切な情報には利点もあるが、欠点もある。本日はこれをお伝えしたい。」と、加藤先生らしい“熱い”冒頭あいさつにて会が始まりました。

山口副部長が座長のもと3名の演者に御講演頂きました。最初に『骨粗鬆症による脊椎骨折の治療法—手術療法を中心に—』をテーマに湯川部長がお話されました。潰れた背骨にセメントを注入して固める手術であるBKP(Balloon kyphoplasty)の紹介をされました。傷は小さく、手術時間は短く、出血もごく少量で患者さんの負担が少ない手術です。会場からの質問に対しては、関西人らしいユーモアを交えた返答をされておりました。

次に『大腿骨頸部骨折の治療法』を岡部長がお話されました。お年寄りが尻もちをつかれるとなる足の付け根の骨折です。金属性のネジ・板などで骨をつなぐ骨接合術と、骨折

した大腿骨の付け根の部分に機械をいれる人工骨頭挿入術の手術を紹介されました。転倒予防には下肢筋力増強がよく、スクワット・片脚立ちなどを紹介されました。

続いて、寺島副部長から『変形性膝関節症の外科的治療—人工関節置換術—』のお話がありました。ビデオを使って、悪くなった膝の軟骨を切除し、機械で置き換える手術であることを説明されました。また手術前と手術後の歩行状態の改善も見せていただきました。会場からは軟骨を減らさないためにはどうすればよいのかという御質問がありました。「自分のように太らないこと」だそうです。(先生、そんなに太ってないですよ。)

最後に加藤院長代理の座長のもと、名古屋大学整形外科石黒教授から『ロコモティブシンドローム 運動と健康のひみつ』のお話がありました。ユーモアたっぷりでお話をされ、何度も会場に笑いが生じておりました。骨を強くするための食事のアドバイスや、健康寿命を延ばすための運動療法の大切さを教えていただきました。『治療は予防に勝てない』と締めくくられました。

予防しきれなかった病気に対する手術方法の紹介に始まり、最後は予防療法の大切さについての説明があり、とても充実した2時間半だったと思います。今後も、このような会を催したいと思っております。新院長代理の下、現代医学でコンセンサスの得られている情報を正確にお届けできたらと職員一同がんばっていきます。